

補助避難所

市民センターでは、平成23年3月に発生した東日本大震災を踏まえ、さまざまな防災・震災復興関連事業を実施。平成25年度に策定された「仙台市地域防災計画」では、市民センターは大規模災害時には「補助避難所」として活用できる施設となっている（沖野市民センター）。

「補助避難所」とは、指定避難所を補完する施設として、

- ・「指定避難所での生活が困難な方（災害時要援護者など）を受け入れる施設」
- ・「地位の立地条件から指定避難所への非難が困難な方を受け入れる施設」
- ・「指定避難所の収容人員を超えた場合、損壊等により受け入れができない場合に活用する施設」

※地域によっては、例外もあります。

福祉避難所

仙台市では、災害時に指定避難所での生活が困難な高齢者、障害者等の災害時要援護者を受け入れるため、市内の福祉施設を「福祉避難所」として指定している（沖野老人福祉センター）。

なお、福祉避難所は、災害時に必要に応じて開設される二次的避難所であり、最初から避難所として利用することはできない。

平成28年
6月12日(日)
仙台防災の日
9:00~11:30

水害想定訓練 於:沖野小学校

平成28年度 仙台市若林区 総合防災訓練



若林区では平成28年9月10、11日の水害経験を基に沖野をモデル地区に初めて水害の防災訓練が行われます。

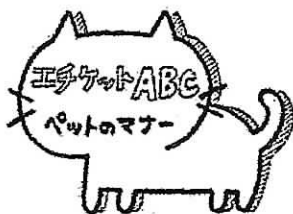
水害の場合、指定の避難所が安全とは限りません。

地震と水害では、メカニズムが全く違うので、是非訓練にご参加ください。

日時:平成28年6月12日(日)9:00~11:30

エリア:六郷、沖野地区および仙台市立沖野小学校区

内容:「水害想定訓練」



最近、沖野町内でネコを多く見かけます。動物の「フン害」で大切に育ててきた草花が枯れる被害が出ています。動物を飼っている方は、愛情と責任を持ってください。



編集後記



座談会を通し、防災に対し強い思い入れと努力されている事を知り、心強さを感じました。多くの方の理解と協力の上で安心できる地域になっていけたらと思います。今回のお話の中で訓練に対し参加者の減少が見られたとお聞きしました。日頃から向こう三軒両隣を大切に、この事を忘れず、かわら版作りに取り組んでいきたいと思ひます。

<お問い合わせ先>

おきのかかわら版編集室(沖野市民センター内)〒984-0831

仙台市若林区沖野7-34-43

TEL:022-282-4571 FAX:022-285-4681

e-mail: okino-simino@hm-sendai.jp

沖野かわら版

第七号

平成28年3月11日発行

「沖野かわら版第7号」を2016年3月11日に発行します。

今回は、昨年(2015年)の11月1日に発行した「沖野かわら版第6号」でお知らせしたように、地域住民の防災に対する意識向上を目的として開催した「防災・減災学習会(10/1と10/8実施)」でのご意見やご感想を中心に編集しました。

あれから5年の月日が流れました。もうすでに、震災前の生活を取り戻すことが出来た人達もいらっしゃいますが、未だ、当たり前の生活を取り戻してない人達も沢山いらっしゃいます。

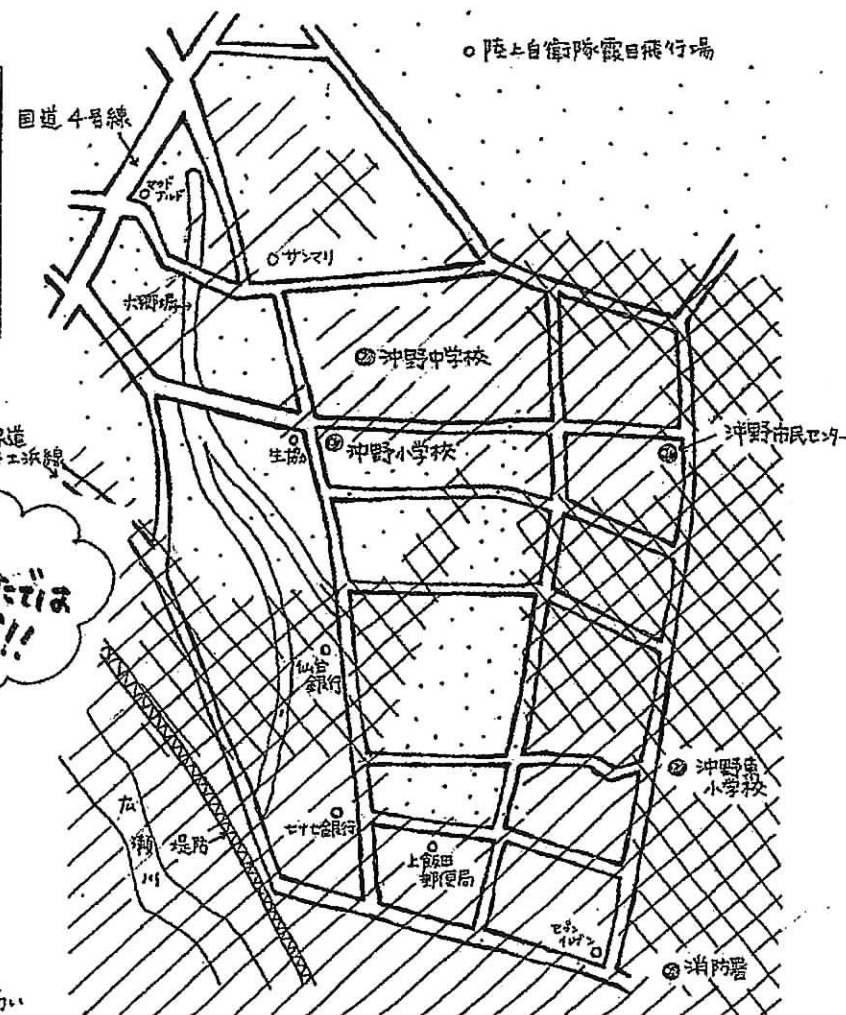
各メディア等で、震災関連の情報を取り上げることが日に日に少なくなってきている今日この頃、震災の経験から得た教訓を風化させないように、もう一度あの日に立ち返って、震災発生から復興への5年間を見つめ直す必要があると思ひます。

このかわら版が、その見つめ直すきっかけとして、お役に立てればと願っております。皆様の率直なご意見・ご感想をお待ちしております。

注目

沖野地区液状化と震度予想

宮城県沖地震(単独型)による想定震度分布図(揺れやすさマップ)によると、マグニチュード7.5の場合、沖野地区は震度6弱になると予想されています。



知らなかつたはすまんぞ!!

仙台市都市整備局住環境部住環境整備化
仙台市地盤ハザードマップ参照

アンケート結果

HUG

平成27年10月1日(木)
沖野市民センター実施

避難所 運営 ゲーム
Hinanzyo Unei Game



避難所運営カードゲーム

KIT

平成27年10月8日(木)
沖野市民センター実施

活動 イメージ トレーニング
Katudo Image Training

避難所開設準備カードゲーム

質問	HUG (参加人数 23名)	KIT (参加人数 21名)
1. ゲームを体験してみて、理解できましたか?	はい 23名 いいえ 0名	はい 21名 いいえ 0名
2. このゲームを自分の地域で広めたいと思いますか?	はい 21名 いいえ 2名	はい 21名 いいえ 0名
3. 機会があればこのゲームをもう一度体験したいですか?	はい 21名 いいえ 2名	はい 21名 いいえ 0名

4. このゲームで気づかされたことを一言お願いします。

HUG	KIT
<ul style="list-style-type: none"> ○数多く体験することの必要性 ○瞬時に判断することの難しさ ○優先順位を考えること ○自分が想定していたこと以外の出来事が多く、知識や経験のなさを感じた ○日頃から防災、いざという時のことを考える大切さに気づいた ○避難者それぞれの事情を抱えており、運営は難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな人の意見が違うのでまとめるのが大変だが、協力して意見を出し合うことが大切 ○運営委員ができることは限られているので短時間で決めることができるようにみんなの協力が必要 ○自分たちの手で物事にあたることと、呼びかけて協力者を得ること ○常日頃から訓練に積極的に参加することが大事であることを認識 ○あたり前のことができないことに気づいた ○固定観念を強くしないこと ○時間・人数により準備の仕方が変わること ○避難者が避難所を運営するというのが良い発想であり、人手が増えて良い

HUG・KITをもう一度学んでみたいという感想もいただきました。
アンケートにご協力くださった皆さん、ありがとうございました。

座談会

平成28年2月16日(火)



平成27年10月24日(土)に実施された沖野中学校区地域防災合同訓練に参加された方々にご意見を伺いました。



課題

- ・一般参加者が半減した。
- ・一般参加者が手持無沙汰にならないよう一体型訓練を!
- ・避難所運営訓練も大事だが、人命救助の訓練も必要なのでは?
- ・中学生の仮設トイレ組み立てをしているところを見せてほしかった。
- ・学校と町内の連携がとれていない。そして訓練がばらばら。
- ・沖野東小学校は、水害時避難所には不向き。



各町内会の取り組み

- ・安否確認 (民生委員、中学生)
- ・黄色いハンカチ (災害時異常なしの表示)
- ・危険箇所確認
- ・呼集訓練 (各班で見回り状況を本部に連絡)



見えてきたこと

- ・中学生の力は大きい。
- ・町内会全体で避難所運営を!
- ・自分の身を守る知識がないため各地域での訓練の必要性。
- ・避難所が安全とは言えないので、日頃より自宅避難を心掛けよう。
- ・訓練への参加者を増やし、視野を広げる。

若い力で地域を守る!

沖野地区総合防災訓練

平成27年10月24日(土)に、沖野市民センター(※補助避難所)を会場に「若い力で地域を守るー沖野地区総合防災訓練ー」を開催されました。

「①負傷者弱者搬送訓練」と「②非常時における応急手当」の訓練を行いました。
主に中学生を対象に、地域の大人と中学生が災害時にどのような事が求められるかを実践し、災害に備える大切さを学びました。

◇参加人数：中学生45人、大人7人

◇訓練指導：防災コーディネーター(進行)、若林消防署六郷出張所(搬送訓練、AED訓練)
沖野老人福祉センター(車椅子による搬送訓練)
婦人防火クラブ沖野支部(応急手当訓練)
沖野地域包括支援センター(高齢者等への配慮に関する講話)
沖父ちゃん会(実技指導補佐)

体重の重い人も楽に搬送



毛布の端を足の指の間に挟む

災害時はラッパが活躍



ラッパの上部に巻いた三角巾の代用になりラッパの音も管理の際に追加にもできる